三文オペラ（1930）

DIE DREIGROSCHENOPER

メディア 映画
ジャンル ミュージカル
製作国 ドイツ／アメリカ
色彩 B&W
時間 108分
初公開日 1932/02
公開情報 劇場公開

【解説】

ブレヒト＝ヴァイルの傑作ミュージカルの最初の映画化。音を持った映画の威力を痛感させる、トーキー初期には珍しい音楽劇の佳作だ。

ロンドンの下町の雑踏を捉えるカメラがゆったりと前進し、“マック・ザ・ナイフ”として知られる例の歌を手回し風琴鳴らしつつ唄う演歌師に近づく。傍らの絵をめくっての評判の追い剥ぎ、匕首メッキーを讃える歌だ。それを人だかりから離れた街角で娼婦ジェニー（ヴァイル夫人で後にハリウッドで活躍するＬ・レーニア）と聴くメッキー氏（Ｌ・フォルスター）の眼は、母親と共に買物中の美しい娘ポリー（Ｋ・ネーヘル）に釘付けになる。情人を振り捨て娘の後を追い、彼は娘をホテルのダンスに誘い、早速、子分に結婚式場の用意をさせる。が、ポリーは彼らと覇を競う乞食の親分ピーチャムの一人娘。父親が黙っているはずがない。メッキーの居所を警察に密告するが、それは彼も察するところで、新妻を残し身を隠す。そして、意外に図太いポリーは騒ぎ立てる子分を一喝。メッキーの全財産で銀行を買収。一党を正業に就かせようとする。一方、情の多いメッキーは娼窟にいるジェニーにまで挨拶にくるが、案の定、密告され、土壇場で思い直した彼女に逃されはするが、結局捕らえられる。なのに、彼は逃げたと早とちりしたピーチャムは、警察の威信を傷つけようと、その夜予定されていた聖十字架祭の妨害を企む。今や頭取のポリーはメッキーの釈放に一万ポンドを積むが、既に彼は、看守を色仕掛けで陥落させたジェニーの助けで脱出していた。そして祭りは大混乱。責任を取った署長ブラウンは銀行にいるメッキーに会いに来た。二人は兵隊時代の仲間なのだ。そこにすっかりしょげたピーチャムが現われ、三人和解の大合唱……。再び、始まりと同じ旋律の演歌師の結びの歌となる。意図されたことなのだろうが歌の場面に全く動きがなく、少し食い足りなさも残るが、パブスト演出はブレヒト独特の頽廃と黒いユーモアを見事にフィルムに定着させていた。

【クレジット】

監督	Ｇ・Ｗ・パブスト	G.W. Pabst
原作	ベルトルト・ブレヒト	Bertolt Brecht
脚本	エルネスト・ヴァイダ	Ernest Vajda
撮影	Ｆ・Ａ・ヴァグナー	F.A. Wagner
音楽	クルト・ワイル	Kurt Weill
	テオ・マッケーベン	Theo MacKeben
出演	ルドルフ・フォルスター	Rudolf Forster
	フリッツ・ラスプ	Fritz Rasp
	カロラ・ネーヘル	
	ロッテ・レーニャ	Lotte Lenya

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.